



谷山の「コミュニティプラン策定」に協力

国際文化学科 内山ゼミ

国際文化学科の内山仁准教授（教育学）のゼミは、地元の「**谷山ふるさとコミュニティ協議会**」と連携しており、昨年度は同協議会に設置された「ユースミーティング谷山」で、鹿児島情報高等学校の生徒と一緒に地域活性化策を検討しました。

その活動を踏まえ、同協議会の「**第2期谷山ふるさとコミュニティプラン**」の策定事業に携わりました。このプランは、谷山校区に暮らす人々が今の時代にふさわしい暮らしやすさを実現するために、2026年までの5年間に目指す街づくりをまとめたものです。

このほど完成した広報用パンフレットには、ユースからの提案として、内山ゼミ生4名の意見が掲載されました。それぞれの立場で感じていることや提案している内容が、地元の方々へも大変好評のようです。

内山ゼミでは、今後も同協議会と連携した活動を行っていく予定です。

「ユースからの提案」を裏面に掲載



自然体験活動に必要な支援を学ぶ

国際文化学科 内山ゼミ

国際文化学科の内山仁准教授（教育学）とゼミ生（2年生3名、3年生12名）が、5月29日に**南薩少年自然の家（南さつま市金峰町）**で開催された**ヤングメイツセミナー**に参加しました。

ヤングメイツセミナーは、体験活動の重要性を理解し、子どもたちとの関わり方や活動支援スタッフの役割について学ぶ機会になっています。参加者の中には高校生もいて、お互いを名前で呼び合いながら、協力して活動することができました。

午前中は野外炊飯でカレーを作り、自分たちで役割分担をして助け合って料理を作ることはもちろん、子どもたちがどのような行動をするかを考えながら取り組みました。



午後からはレクリエーションを行い、昼食後で疲れが見え始める時間帯に体を動かす事で、モチベーションをあげて雰囲気良く働くことが分かりました。

最後の流木を使った飾り物の制作では、子どもたちが実際に制作する際にどのような危険があるのかを想定しながら作りました。職員の方々の対応を拝見すると、学生や生徒のモチベーションを上げる関わりや声の大きさの調整、そして個々に対して質問をしていくといった対応をされていることに気がきました。

1日のスケジュールを終えるとボランティア参加の修了証を貰うことができ、学ぶことの多い内容でした。また、機会があれば参加したいと思います。

文：地福夢那（国際文化学科3年）、片平康太（同）





ユースからの提案

▼谷山ふるさとコミュニティ協議会制作の
「第2期谷山ふるさとコミュニティプラン」
のパンフレットより抜粋

谷山ふるコミでは、令和3年度「ユースミーティング谷山」を設置し、理想の未来を実現するための一つの取組として、若い発想力をこれからのまちづくりに活かす取組をはじめています。新型コロナの影響により十分な活動はできませんでしたが、鹿児島国際大学国際文化学部（内山ゼミ）の学生と鹿児島情報高校普通科2年生とで行ったミーティングなどを踏まえ、今回、鹿児島国際大学の学生から提案をいただきました。今後の谷山ふるコミの活動に活かせるよう、検討していきたいと考えています。



谷山を綺麗で安心できる町に！
4年 上村 遼

谷山は良い町ですが、改善点もあるようです。それは永田川のニオイとまちの治安。祖父母の代から谷山に住んでいる私は気づかなかったのですが、永田川のニオイが気になる人はかなりいるようです。コロナ禍以前は近くの鹿児島情報高校による清掃活動も行われていたようですが、それがないとやはりニオイがしてしまうようですね。そこで、谷山ふるコミの活動に清掃活動を取り入れてみるのはいかがでしょうかと考えました。私たちが自分の住む地域の現状を知り、環境について考える機会になるかもしれません。

次に、治安の問題です。住んでいて特に治安が悪いと感じたことはありませんが、谷山は治安が悪いというイメージを持たれているなど感じる場合があります。本当は、ただ若者が集まっているだけだったりするので、谷山をアピールする場、例えばコミュニティプランや谷山ふるコミのSNSなどを通して発信し、このちょっとした認識のズレを解消できたらいいのではないかと思います。「若者が集まって楽しく過ごせるまち」と「みんなが安心して住めるまち」の両立ができると素敵ですね。



何度も探検したくなる谷山に！
4年 茶園 梨乃

私の趣味はカフェ巡りです。おしゃれでゆったりできるカフェが好きで、谷山には路地にひっそりと現れる穴場が多く、行きたい場所がいくつもあります。大学へ車通学している私が、学校帰りにふらっとカフェに寄りたいたいと思っても駐車場がありません。一方で、谷山小の子どもたちとまち探検をした際に、車道が狭く細い道が沢山あり迷路のようで楽しかった記憶があります。そこで、駐車場を別の場所に整備し、谷山のまちを探索しながらカフェに行くことができれば、アピールポイントがまた一つ増えるのではないのでしょうか。

また、三宅美術館で行われた海底の戦争遺跡写真展で、子どもたちに潜水服を着させるなど、運営のお手伝いさせていただく機会がありました。谷山ふるコミの方が子どもたちに「いつも来てくれてありがとう」といった声かけをしているのが印象的で、子どもたちがリピーターとなって谷山ふるコミの活動に参加していることが分かりました。リピーターである子どもたちが地域内外の友だちを連れてきてくれることで、より谷山ふるコミのファンの幅が広がってくると思います。



谷山や谷山ふるコミの認知度を
もっと上げたい！
3年 内村 陸人

僕は鹿児島情報高校出身ということもあり、谷山地区にとっても馴染みがあります。しかし、高校生の時からInstagramを使っていますが、地元・谷山の情報がなかなか得られないと感じていました。

谷山を盛り上げるにはどうすればいいかを考えた時、谷山ふるコミでは公式HP等で発信していますが、多くの若者が利用しているInstagramでの発信が大切だと考えます。その具体策として、ハッシュタグの活用も大事だと思います。ハッシュタグを使うことで、検索に引っかかりやすくなり、そのカテゴリーに興味のあるユーザーが自分の投稿を見してくれる可能性が高くなるからです。投稿内容は、谷山ふるコミの活動はもちろん、谷山の様々なお店を継続的にアピールしていけたらいいと思います。また、新規ユーザーの獲得を狙う投稿のほかに、ストーリー機能を使い、生活していて感じたことや、身の回りのちょっとした変化（景色や食べ物）をこまめに投稿することも大事です。

これらの投稿を通じてフォロワーなどとコミュニケーションを図り、谷山や谷山ふるコミをより身近に感じてもらうことで、多くのファン獲得に繋がることが期待できると思います。



意見あふれる町に！
4年 家村 尚宏

私は鹿児島国際大学に入学し内山ゼミに入ってから、谷山に直接的な関わりを持つようになりました。というのも、私はこれまで、谷山に住んだことが無く、訪れることもほとんど無かったからです。しかし、内山ゼミの活動として、谷山小の子どもが参加するまち探検に参加したり、谷山ふるさと祭で地域の方々と一緒に踊ったりと、谷山での活動の機会を多くいただきました。

これらの活動は、内山ゼミの先輩方、内山先生と谷山ふるコミの方々との関係が築かれていたからだと感じています。令和3年度には、更に鹿児島情報高校とのユースミーティングがありました。谷山について積極的に意見を交わしながら、谷山を住みやすいまちにするためにはどうしたらいいかを若者の視点から考えてきました。

こうした活動を通して、我々大学生は、幼稚園、小学校、中学校、高校などと連携しながら、若者の視点からまちをよくするためのユースミーティングを継続的に行うとともに、谷山に住む人だけでなく、通う人、関係する人などの意見も取り込むための、谷山との架け橋を担わなければならないと感じました。